

令和6年度 教育事業等報告書



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立赤城青少年交流の家

目 次

1 青少年教育に関するモデル的事業

・あかぎ無限大キャンプ(ボランティア研修)	2
・あかぎ無限大キャンプ(事前キャンプ)	4
・あかぎ無限大キャンプ(本キャンプ)	6
・あかぎ無限大キャンプ(事後キャンプ)	8
・地域探究プログラム(ちいぷろ!)オリエンテーション合宿 in 赤城	10

2 社会の要請に応える体験活動等事業

・親子キャンプ～クリスマス編～	12
-----------------	----

3 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業

・あかぎ 虫の音キャンプ	14
--------------	----

4 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業

・ボランティア養成セミナー	16
・自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成事業	18
・自然体験活動指導者(NEAインストラクター)養成事業	20
・利用団体のための説明会	22

5 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業(交流の家実施主体事業)

・群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動推進事業	28
・あかぎフェスタ2024	30
・あつまれ! 親子運動会	32
・さくらフェスタ	34

6 その他

・地域との合同防災訓練	35
-------------	----

1 青少年教育に関するモデル的事業

「あかぎ無限大キャンプ（ボランティア研修）」

1. 趣旨

あかぎ無限大キャンプに参加するボランティアを対象に安全管理やボランティアの役割等に関わる講義や登山・野外炊事等の実習を通して、本キャンプに備えた準備を行う。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和6年7月6日（土）～7月7日（日）【1泊2日】

(2) 参加者

法人ボランティア（2人）

3. 企画運営のポイント

- (1) あかぎ無限大キャンプに向けて、野外炊事・登山についての基本的な知識や技能を身に付けるとともに、ボランティアとしての役割を理解し、心構えをもてるよう企画した。
- (2) ボランティアが見通しと余裕をもって事前キャンプに臨めるように、当該キャンプの内容に沿った研修内容を企画した。

4. 日程

	午 前	午 後	夜
7月6日 （土）	集合 自己紹介・アイスブレイク 説明「事業概要説明」 講義「青少年教育施設におけるボランティアの役割」 講師：当所職員 平澤 輝樹	演習「クップ・キンボール」 「テント設営の方法」 講師：当所職員 平澤 輝樹	演習「野外炊事」 講師：当所職員 平澤 輝樹
7月7日 （日）	演習「つどい・退所点検の仕方」 講師：当所職員 酒井 亮介 実技「登山」 （覚満淵～鳥居峠～長七郎～小沼） 講師：当所職員 平澤 輝樹	説明「事前キャンプ日程確認」 講師：当所職員 平澤 輝樹	

5. 主な活動内容



「テント設営の方法」



「野外炊事」



「退所点検の仕方」



「赤城山登山」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：2人（100%）	やや満足：0人（0%）
やや不満：0人（0%）	不満：0人（0%）

(2) 参加者の声

- ・キャンプにボランティアがどういう形で関わるのかが分かった。
- ・改めて、ボランティアの役割や心構えについて再確認することができた。
- ・テントの設営や、ニュースポーツの体験も初めてだったので、事前に経験できてよかった。
- ・実際に野外炊事でカレーをつくることで、教える側になったときにボランティアとしてどのように関わったらよいかを考えるきっかけになった。

(3) 成果

- ・実技に関する研修を通し、「ケガや事故が予測される場面や箇所を把握することができた」等の感想が多いことから、有効であったと考えられる。
- ・登山を通し、ボランティア自身の体力把握ができ、子供たちとの登山についても見通しをもたせることができた。

(4) 課題

- ・子供との接し方について漠然とした不安を抱えるボランティアもいるので、講義などを通し、少しでも解消できるような配慮が必要である。
- ・本キャンプで実施予定のプログラム数を考えると、1泊2日の研修ではすべてを網羅することは難しい。プログラムの危険度やけがのリスク等を考慮し、ボランティア研修で実施するプログラムの精選が必要である。

担当：企画指導専門職 平澤 輝樹

「あかぎ無限大キャンプ（事前キャンプ）」

1. 趣旨

本キャンプに向け、心身の準備を整えるとともに、キャンプについての基本的な知識技能の習得を目指す。

2. 事業の概要

（１）期日

令和6年7月13日（土）～7月14日（日）【1泊2日】

（２）参加者 23名

5年生男子（8名） 6年生男子（4名）

5年生女子（6名） 6年生女子（5名）

3. 企画運営のポイント

- （１） 本キャンプで実施予定の日程・プログラムを基に計画し、参加者が本キャンプに向けて心身の準備を進められるようにした。また、登山や野外炊事では安全指導を行い、基本的な知識・技能の習得ができるようにした。
- （２） より多くの参加者同士が交流できるようにするため、プログラムごとにチームを再編成した。
- （３） チームリーダーであるボランティアがより多くの参加者の実態把握ができるよう、プログラムごとに担当するチームを変更した。

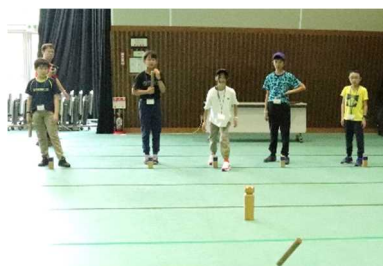
4. 日程

	午 前	午 後	夜
7月13日 （土）	受付 開会式 自己紹介・アイスブレイク 昼食	レクリエーション （クップ・キンボール）	野外炊事 講師：研修指導員 角田 正基 氏 ふりかえり
7月14日 （日）	朝のつどい 朝食 登山 （覚満淵～長七郎～小沼） 講師：研修指導員 荒木 輝夫 氏 昼食 （小沼湖畔）	ふりかえり アンケート 解散	

5. 主な活動内容



「アイスブレイク」



「クップ」



「キンボール」



「野外炊事」



「登山」



「ふりかえり」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：16人（69％）	やや満足：5人（21％）
やや不満：0人（0％）	不満：0人（0％）

(2) 参加者の声

- ・自分だけではなく、みんなと楽しめた。
- ・疲れたけどとても楽しかった。
- ・カレー作りやレクリエーションが楽しかった。
- ・普段できない野外炊事や登山ができて良かった。
- ・ボランティアさんやスタッフさんが話をしてくれたり質問に答えたりしてくれてとても嬉しかった。
- ・まだ体験したことがないことも体験できたので良い経験になった。
- ・みんなと仲良くなれたし、色々なことに挑戦できた。
- ・キャンプってこういうものなのだなというのがよくわかった。
- ・スタッフやボランティアが笑顔で対応してくれた。

(3) 成果

- ・活動ごとにグループを再編成したことにより、参加者同士の多様な交流につながった。また、ボランティアと参加者の関係性の構築にもつながった。
- ・ボランティア主体のアイスブレイクを実施したことにより、参加者とボランティアの関係づくりにつながった。
- ・登山や野外炊事では、登りの登山者を優先したり、かまどの周りを走らないよう声を掛け合ったりする姿があり、安全指導の効果が見られた。
- ・本キャンプに向けて、自己の体力や野外炊事での改善点など課題を見つけ、本キャンプに活かしたいという前向きな感想が多く、本キャンプに向けての期待が高まった。

(4) 課題

- ・事前キャンプ、本キャンプとも、暑さへの対策が必須である。本キャンプではゆとりあるプログラム編成や健康観察を行うことで、熱中症予防に努める必要がある。
- ・登山の際、雨天やバス酔い等の影響で、予定した行程より遅れが出た。ゆとりあるプログラムの編成に加えて、参加者の登山経験等を考慮に入れた時間配分を考える必要がある。

担当：企画指導専門職 平澤 輝樹

「あかぎ無限大キャンプ（本キャンプ）」

1. 趣旨

- (1) 協働的な体験プログラム（野外炊事、赤城山登山、レクリエーション等）を通して、多様性を認め合える意識の醸成を図る。
- (2) 長期自然体験活動を通して、健康の保持増進（近視進行の抑制）を図る。

2. 事業の概要

- (1) 期日
令和6年8月11日（日）～8月18日（日）【7泊8日】
- (2) 参加者 23名
5年生男子（8名） 6年生男子（4名）
5年生女子（6名） 6年生女子（5名）

3. 企画運営のポイント

- (1) グループでの話し合いが課題解決的な内容になるよう、必要感のある課題を設定し、計画的に実施した。
- (2) 本キャンプの日程をステージごとに分け、事前キャンプから事後キャンプまでを通して、ステージのねらいを参加者が意識できるようにしながら実施した。
- (3) 「サード【成長】」ステージでは、個人で登山のコースを選択する赤城山選択登山を設定することにより、個人の成長を実感できるような活動を実施した。

4. 日程

	午 前	午 後	夜
8月11日 （日）		・開会式・アイスブレイク ・チームミーティング① ・眼の検査	・チームミーティング② ・ふりかえり
8月12日 （月）	・あかぎアドベンチャー プログラム	・テント設営 ・選択クラフト体験 （かんな箸・スプーン）	・チームミーティング③ ・ナイトウォーク ・ふりかえり
8月13日 （火）	・野外炊事 ・選択レクリエーション	・野外炊事	・登山安全指導 ・ふりかえり
8月14日 （水）	・赤城山登山 （地蔵岳、小沼）	・登山ミーティング ・チームミーティング④	・ふりかえり
8月15日 （木）	・選択レクリエーション	・選択クラフト体験 （かんな箸・スプーン） ・野外炊事	・ふりかえり
8月16日 （金）	・赤城山選択登山	・赤城山選択登山 （地蔵岳・黒檜山）	・チームミーティング⑤ ・ふりかえり
8月17日 （土）	・キャンプのまとめ ・お別れレクリエーション 大会	・眼の検査 ・パーティ準備 ・お別れパーティ	・ふりかえり
8月18日 （日）	・ふりかえり ・閉会式・決意表明		

5. 主な活動内容



「あかぎアドベンチャープログラム」



「テント設営」



「選択クラフト体験」



「チームミーティング」



「赤城山選択登山」



「お別れレクリエーション大会」

6. 成果と課題 ※1名未実施

(1) 参加者アンケート結果

満足 : 18人 (81.8%) やや満足 : 4人 (18.2%)
やや不満 : 0人 (0%) 不満 : 0人 (0%)

(2) 参加者の声

- ・グループのみんなと協力して、仲良くなることができた。
- ・初めてのことがたくさんあったけど、協力して取り組めた。
- ・みんなで相談して、楽しくレクリエーションの内容を決めることができた。
- ・赤城山選択登山では、チームは関係なくみんなで声をかけ合い、協力できた。
- ・みんなで協力してやり遂げることは楽しかったし、達成感もあった。
- ・キャンプを通して、協力や仲間の大切さを学んだ。
- ・絆を深めるためには話すことが大切だと分かった。

(3) 成果

- ・参加者アンケートで、「みんなで相談して、楽しくレクリエーションの内容を決めることができた。」「みんなで協力してやり遂げることは楽しかったし、達成感もあった。」等の感想から、グループでの話し合いに課題解決的な課題を設定したことで、グループ内での多様な考えにふれ、互いに認め合うことにつながった。
- ・ステージごとのねらいにせまるプログラム編成を行ったことで、参加者がねらいを意識しながらプログラムに参加することができた。
- ・キャンプ後の学校生活や家庭生活の変容についての保護者アンケートには、「料理や洗濯のお手伝いをしてくれるようになった。」「運動会の副団長になった。」「困ったことや大変な時に、友達に相談できるようになった。」等の記載が見られた。本事業の経験が参加者の主体的・自発的な行動につながった。

(4) 課題

- ・研修指導員によるプログラム指導をより効果的に取り入れるため、プログラムの精選や、プログラムの時間配分の工夫が必要である。

担当：企画指導専門職 平澤 輝樹

「あかぎ無限大キャンプ（事後キャンプ）」

1. 趣旨

参加者にキャンプをやり遂げたという達成感を味わわせるとともに、自身の変化や成長を見つめる機会とする。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和6年9月14日（土）～9月15日（日）【1泊2日】

(2) 参加者 22名

5年生男子（7名） 6年生男子（4名）

5年生女子（6名） 6年生女子（5名）

3. 企画運営のポイント

(1) キャンプを通して使用したふりかえりシートをもとに取組発表を行うことで、本キャンプ後の自身の成長や変化について参加者が把握できるよう配慮した。

(2) 既習のキャンプ技能を発揮する場として野外炊事を設定することにより、自身の成長を実感できるよう企画した。

4. 日程

	午 前	午 後	夜
9月14日 (土)	開会式 本キャンプのふりかえり	チームミーティング 選択レクリエーション 眼の検査	野外炊事 たき火 ふりかえり
9月15日 (日)	朝のつどい アドベンチャーラリー 取組発表準備	ふりかえり アンケート 取組発表 閉会式	

5. 主な活動内容



「本キャンプのふりかえり」



「選択レクリエーション」



「野外炊事」



「たき火」



「アドベンチャーラリー」



「取組発表」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足	: 21人 (95.5%)	やや満足	: 1人 (4.5%)
やや不満	: 0人 (0%)	不満	: 0人 (0%)

(2) 参加者の声

- ・たくさんのことにチャレンジすることができた。
- ・色々な人と触れ合うことができて楽しかった。
- ・楽しいプログラムばかりだった。
- ・久々にみんなと話ができて嬉しかった。
- ・みんなと協力して美味しいカレーを作ることができた。
- ・アドベンチャーラリーでは、まるで冒険をしているみたいで楽しかった
- ・取組発表は、緊張したけどしっかりと発表できた。

(3) 成果

- ・キャンプを通して共通のふりかえりシートを使用し、記入してきたことで、参加者が自身の成長を見つめる機会となった。
- ・取組発表を行うことで、本キャンプの決意表明後、学校生活や家庭生活でどのようなことをがんばっているか、自身をふりかえる機会となった。
- ・本キャンプで実施できなかったプログラムを実施することができ、参加者の満足度も高かった。
- ・野外炊事では、参加者からも「みんなと協力して美味しいカレーを作ることができた。」「かまどの火の調節を上手にすることができた。」など、既習の技能を生かして調理することができたという感想が多いことから、身に付けた技能を発揮する場として効果的だった。

(4) 課題

- ・事後キャンプの趣旨へさらに迫れるように、参加者自身が成長を感じるとともに、キャンプをやり遂げたと実感できるようなプログラムの工夫が必要である。

担当：企画指導専門職 平澤 輝樹

「地域探究プログラム（ちいぷろ！） オリエンテーション合宿 i n 赤城」

1. 趣旨

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、探究のプロセスを体験し、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを身に付ける。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和6年8月4日（日）～8月6日（火）【2泊3日】

(2) 参加者

群馬県立富岡高等学校 1年生26名、2年生4名

3. 企画運営のポイント

- (1) 活動の目的や達成目標を明確にし、探究の学びのプロセスを用いて、指導計画とワークシートを作成する。
- (2) 前橋市地域おこし協力隊と連携し、充実したフィールドワークを行う。参加者の地域課題と共通する内容を扱う。
- (3) 富岡高校の「総合的な探究の時間」の教育課程と関連させ、本合宿の成果を学校で活かすことができるようにする。富岡高校では個人での探究活動が中心となっているため、本合宿では個人ワークや個人発表のプログラムの充実を図る。

4. 日程

	午 前	午 後	夜
8月4日 (日)	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」 講師：三ツ井朋大 氏 (前橋市地域おこし協力隊)	講義・演習① 「地域理解」	講義・演習② 「課題解決の基礎」
8月5日 (月)	フィールドワーク② 「地域課題の探究」 講師：三ツ井朋大 氏 (前橋市地域おこし協力隊) 講義・演習③－1 「地域課題の探究」	講義・演習③－2 「地域課題の探究」 発表①	講義・演習④－1 「行動計画の基礎」
8月6日 (火)	講義・演習④－2 「行動計画の基礎」	発表② 実践活動のためのガイダンス	

5. 主な活動内容



フィールドワーク①
「地域の魅力を発見」



講義・演習①
「地域理解」



講義・演習②
「課題解決の基礎」



フィールドワーク②
「地域課題の探究」



講義・演習④
「行動計画の基礎」



発表

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足 21名 (70.0%) やや満足 9名 (30.0%) やや不満 0名 不満 0名

(2) 参加者の声

- ・課題解決の手順を学ぶことができた。
- ・探究のやり方について、以前よりも深く知ることができた。
- ・グループワークでアイデアを出し合ったり、意見を聞いたりすることが楽しかった。
- ・たくさんのアイデアを出すことができ良い経験となった。アイデアの発想法が身に付いた。
- ・自分の意見をしっかり考える機会が多くて良かった。
- ・地域について深く考えることが無く、課題を見つけることに苦労したが、良い機会だった。
- ・自分の地域について、探究したいことをまとめることができた。
- ・人前で発表することはとても緊張したが、良い経験となった。

(3) 成果

- ・参加者から「課題解決の手順を学ぶことができた。」「探究のやり方について、以前よりも深く知ることができた。」「たくさんのアイデアを出すことができ良い経験となった。」「アイデアの発想法が身に付いた。」などの意見があることから、探究のプロセスごとに活動の目的を明確にし、ワークシートを活用したことは、情報の整理や分析、アイデア出し、発表内容を考えるための手段として有効であった。
- ・参加者から「地域について深く考えることが無く、課題を見つけることに苦労したが、良い機会だった。」「自分の地域について、探究したいことをまとめることができた。」などの意見があることから、地域についての理解を深める上でフィールドワークは有効であり、自分の地域に目を向けるきっかけとなった。

(4) 課題

- ・参加者数が定員を大幅に超えたため、講師1名によるフィールドワークでは非効率な場面があった。グループごとにローテーションして活動するなどの工夫、法人ボランティアによるサポートを検討する必要がある。
- ・個人発表の際、プロジェクターと参加者持参のタブレットやスマートフォンとの接続に不具合が目立った。学校持参パソコンを用意してもらうなどの対策が必要である。

担当：主任企画指導専門職 杉山 直弥
企画指導専門職付主任 山田 堯輝

2 社会の要請に応える体験活動等事業

「親子キャンプ～クリスマス編～」

1. 趣旨

クリスマスイベントに関わるレクリエーションや森の散策等の野外活動を通じて、自然に親しむとともに親子の交流を深める。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和6年12月14日(土)～12月15日(日)【1泊2日】

(2) 参加者

①参加対象

小学校1～2年生とその保護者 ※兄弟姉妹がいる場合も参加可

②参加人数

23名(10家族)

3. 企画運営のポイント

- (1) 季節の行事であるクリスマスに関するプログラムを通して親子の交流を深めるとともに、森の散策等の野外活動を取り入れ、自然に親しむ機会を設ける。
- (2) 法人ボランティアが企画、運営をする自主企画事業でもあるため、法人ボランティアと連携を密に図り、趣旨に沿った事業となるよう計画を進めた。

4. 日程

	午 前	午 後
12月14日 (土)		開会式 わくわくタイム (アイスブレイク・森の散策) クリスマス会準備 (リース作り、部屋の飾りつけ) キャンドルナイト (紙芝居、レクリエーション)
12月15日 (日)	朝のつどい クリスマス会 (ケーキ作り、レクリエーション) 閉会式	

5. 主な活動内容



アイスブレイク



森の散策



クリスマス会準備(リース作り)



キャンドルナイト



クリスマス会
(ケーキ作り)



クリスマス会
(レクリエーション)

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足 10 家族 (100%) やや満足 0 家族 やや不満 0 家族 不満 0 家族

(2) 参加者の声

- ・子供にとって、家族旅行以外で初めての宿泊でした。様々なプログラムを用意していただき、貴重な体験をさせていただきました。
- ・「森の散策」では、直接自然に触れたり、普段聞けない説明を聞くことができて楽しめました。
- ・「キャンドルナイト」では、キャンドルの灯りをみんなで囲み、とても温かみを感じることができ、最高の思い出になりました。
- ・「クリスマス会」のケーキ作りでは、自分で楽しみながら作ったので、美味しくたくさん食べていて嬉しく思いました。
- ・「クリスマス会」のレクリエーションでは、全員で遊ぶことができ子供たちがとても楽しそうでした。みんなで一つのことをするという素敵な体験ができました。

(3) 成果

- ・「わくわくタイム」は、初めて出会う参加者同士の緊張をほぐすために、良い機会となったという意見が多かった。特に「森の散策」については、日常生活の中で自然に触れる機会が少ない参加者が多かったこともあり、興味関心が高かった。
- ・「キャンドルナイト」については、紙芝居やハンドベルの演奏など参加者を楽しませる工夫が多く盛り込んだことにより、満足度が高かった。
- ・事業全体を通してボランティアが主体となり、企画・運営を行った。保護者からは、子供に優しく接してくれて、安全な活動ができるよう見守ってくれてありがたかったなど、肯定的な意見が多く寄せられた。

(4) 課題

- ・ボランティア自主企画事業として、法人ボランティアが全てのプログラムの運営に携わったが、中心メンバー以外のメンバーに役割分担等が十分に伝わっていなかった。ボランティアスタッフ一人一人の経験値等の実態に応じた支援を実施するとともに、事前のスタッフミーティングを充実させる必要がある。
- ・募集に対し、定員を大きく超える数の申し込みがあり、参加者を抽選で決定した。より多くの参加者の受け入れが可能なプログラムの内容を企画する必要がある。

担当：企画指導専門職 酒井 亮介

3 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業

「あかぎ 虫の音キャンプ」

1. 趣 旨

国立赤城青少年交流の家において、ひとり親家庭の子供たちを対象に、自然体験等の活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い、子供たちの基本的な生活習慣の確立や自立する力を身につけることを目指す。子供たち同士のふれあいを深めたり、保護者同士の交流を図ったりする活動を通して、心身の健康増進や子供の健全育成を図る。

2. 事業の概要

(1) 期 日

令和6年8月31日（土）～9月1日（日）1泊2日

(2) 参加者

- ①対象 利根沼田地域内在住のひとり親家庭の子供（18歳まで）と保護者
- ②人数 13名
- ③内訳 小学生6名、保護者5名、引率職員（沼田市役所健康福祉部子ども課）2名

3. 企画運営のポイント

- (1) 基本的な生活習慣の確立や心身の健康増進を意識し、体験活動を中心に据えたプログラムを構成した。
- (2) 子供たちの「そうめんづくり」と同じ時間に、保護者の「ワクワク子育てトーク（群馬県教育委員会）」を設定することで、母子分離の機会とした。
- (3) 「生活・自立」「心身の健康増進」「子供の健全育成」が事業の目的であることをスタッフ全員で共通理解した上で、「どのように関わるべきか」を意識しながら事業の運営を進めた。

4. 日程

	午 前	午 後	夜
8月31日 (土)	・開会行事	・館内フォトラリー ・(子)そうめんをつくろう ・(親)ワクワク子育てトーク キング 講師：群馬県生涯学習 センター 社会教育主事 富澤 渉 氏 竹内 正則 氏	・クラフト スプーンづくり ・入浴 ・就寝
9月1日 (日)	・クラフト 木の名札づくり ・所外活動 群馬県立ぐんま昆虫の 森見学		

5. 主な活動内容



館内フォトラリー



そうめんをつくろう



ワクワク子育てトークング



クラフト（木の名札づくり）



群馬県立ぐんま昆虫の森見学



群馬県立ぐんま昆虫の森見学

6. 成果と課題

（1）参加者アンケート結果

満足13名（100%）

（2）参加者の声

【子供】

- ・そうめんづくりはしたことなかったけれど、作り方を教えてくれて楽しかった。
- ・館内フォトラリーでは、いろいろな人と協力ができて、「協力」があれば仲よくなれるからいいと思った。

【保護者】

- ・ワクワク子育てトークングでは、盛り上がりの中、貴重な話が聞けてよかった。
- ・あいにくの雨だったが、昆虫の森を皆さんと楽しく回ることができた。お弁当も一緒に食べることができ、ありがたかった。

（3）成果

- ・子供たちから「そうめんづくりはしたことなかったけれど、作り方を教えてくれて楽しかった。」「館内フォトラリーでは、いろいろな人と協力ができて、「協力」があれば仲よくなれるからいいと思った。」「昆虫をたくさん見られて楽しかった。」などの感想があることから、子供たちの自立する力を身につけさせるプログラムを実施し、子供同士が交流する機会を設けることができたと考ええる。
- ・保護者から「ワクワク子育てトークングでは、盛り上がりの中、貴重な話が聞けてよかった。」「昆虫の森を皆さんと楽しく回ることができた。」などの感想があることから、保護者同士の交流を図るプログラムを実施できたと考ええる。

（4）課題

- ・当日の事業運営を円滑に行うために、事業を企画する段階から連携団体である沼田市役所健康福祉部子ども課と連絡を密に取る必要がある。
- ・初対面の参加者同士もスムーズに交流できるよう、自己紹介やアイスブレイクなどプログラムを工夫する必要がある。

担当：企画指導専門職付主任 山田 堯輝

4 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業

「ボランティア養成セミナー」

1. 趣旨

ボランティア活動の意義を理解するとともに国立赤城青少年交流の家の自然環境を活かした様々な体験活動や学習を通して、青少年教育施設における子供たちの体験活動を支えるボランティアとしての必要な知識・技術について研修する。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和6年6月1日（土）～6月2日（日）【1泊2日】

(2) 参加者

①参加対象 高校生以上

②参加人数 23名

③参加者の内訳 高校生9名、大学生12名、社会人2名

3. 企画運営のポイント

(1) ボランティア活動を行う上で、必要な知識や技能を座学だけではなく、体験を通して学べるように計画した。

(2) 法人ボランティアとして活動してきた先輩ボランティアが、自らの体験談を発表したり、プログラムの一部を担ったりすることで、ボランティア活動について具体的なイメージを持たせるとともに、より身近なものとしてとらえられるようにした。

4. 日程

	午 前	午 後	夜
6月1日 (土)	開会行事 演習「ボランティア活動 の技術」 講師：当所職員 中谷 仁 講義「青少年教育」 講師：当所職員 次長 齊藤 裕徳	講義「ボランティア活動 の意義」 講師：N u k i i t o 代表 高山 弘毅 氏 演習「ボランティア活動 の技術」 講師：当所職員 中山 太平	説明「青少年教育施設にお けるボランティア 活動」 講師：法人ボランティア 根岸 咲代子 福地 えみり 大山 翔
6月2日 (日)	講義「救命救急法」 講師：前橋市消防局北消 防署 署員 講義「青少年教育施設の 現状と運営」 講師：当所職員 次長 齊藤 裕徳	説明「法人ボランティア 登録制度」 講師：当所職員 中山 太平 閉会行事	

5. 主な活動内容



演習「ボランティア活動の技術」



講義「ボランティア活動の意義」



演習「ボランティア活動の技術」



講義「青少年教育施設のボランティア活動」



演習「救命救急法」



講義「講義青少年教育施設の現状と課題」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足21名(91%)、やや満足2名(9%)

(2) 参加者の声

- ・2日間を通して、ボランティアや青少年教育の知識を深め、実践的な力もついた。
- ・様々な年齢の方と交流し、意見交換をする良い機会だった。
- ・参加者としての視点や指導者側としての視点に立ち講義や実習を受けることができ、有意義な時間になった。
- ・ボランティアの意義について改めて考える機会となり、ボランティアの必要性や可能性を知ることができた。
- ・青少年教育施設の現状や現代社会の課題について学び、今後、ボランティアとして活動する際の参考になった。

(3) 成果

- ・知識習得のための講義と技能習得のための実習を効果的に組み合わせることから高い満足度につながった。
- ・先輩法人ボランティアが参加した事業について紹介することで、実際の事業の様子やボランティア活動の具体的なイメージをもつことにつながった。

(4) 課題

- ・当機構のボランティア養成カリキュラムを1泊2日で履修するため、タイトな日程となってしまった。休憩時間や講義の組み合わせ等を考え、ゆとりのある日程を計画することが必要である。
- ・キャンセル等もあり、定員を割る参加者数となった。広報活動を群馬県内の高等学校、大学を中心に行ったが、大学への広報に関しては近県への広報も実施するなど工夫が必要である。

担当：企画指導専門職 中山 太平

「自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業」

1. 趣旨

ボランティア養成セミナーの受講者向けのスキルアップ講習として、楽しく安全な活動を指導するための自然体験活動指導者（NEALリーダー）を養成する。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和6年6月29日（土）～6月30日（日）【1泊2日】

(2) 参加者

①参加対象 高校生以上

②参加人数 21名

③参加者の内訳 高校生7名、大学生9名、社会人5名

3. 企画運営のポイント

- (1) 参加者の確保を図るため、ボランティア活動や自然体験活動への活動意欲に溢れているボランティア養成セミナー直後に開催した。
- (2) ボランティア養成セミナーからのスキルアップという位置づけで、指導者として必要な知識や技能を座学だけではなく、実践を通して学べるようにプログラムデザインをした。
- (3) 主体的な学びの場を提供するために、講義・演習において参加者同士の交流を深める仕掛けや、相互学習する時間を意図的に設けた。

4. 日程

	午 前	午 後	夜
6月29日 (土)	開講式 説明「NEAL制度ガイダンス」 講師：当施設職員 中谷 仁 演習①「アイスブレイク」 講師：当施設職員 中谷 仁	講義①「対象者理解」 講師：大東文化大学 教授 中村 正雄 氏 講義②「自然体験活動の指導」 講師：大東文化大学 教授 中村 正雄 氏 講義③「自然体験活動の技術」 講師：当施設職員 中谷 仁	演習②「野外炊事」 講師：当施設職員 中谷 仁
6月30日 (日)	演習③「赤城山自然散策」 講師：当施設職員 中山 太平	説明「NEAL制度ガイダンス」 講師：当所職員 中谷 仁 認定試験 閉会行事	

5. 主な活動内容



演習①「アイスブレイク」



講義①「対象者理解」



講義②「自然体験活動の指導」



演習②「野外炊事」



演習③「赤城山散策」



演習③「赤城山散策」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足20名(95%)、やや満足1名(5%)

(2) 参加者の声

- ・指導する立場になった際に、目的(ねらい)に沿えるようアクティビティを選択したい。
- ・2日間を通して、自然体験活動の知識・スキルを深め、実践的な力がついた。
- ・自然の良さを伝えることの大切さと難しさが理解できた。
- ・技能と知識がどちらも身に付く内容であった。
- ・赤城山特有の植物を見て学び、改めて自然の中で活動する楽しさを実感できた。

(3) 成果

- ・知識習得のための講義と技能習得のための実習を効果的に組み合わせることから高い満足度につながった。
- ・赤城山散策を取り入れたことで、標高が高い土地特有の植生や自然の壮大さを肌で感じる機会を設けることができた。また、楽しい活動の中にも発見や気づきを得ることができる機会となった。

(4) 課題

- ・本事業は、規定のカリキュラムを履修する必要があることから、ボランティア養成セミナー(1泊2日)と、本事業に参加する必要がある。そのため、より多くの指導者を養成するためにもNEALリーダー養成事業を単独で2泊3日の日程でも実施するなど検討が必要である。

担当：事業推進係主任 中谷 仁

「自然体験活動上級指導者（NEALインストラクター）養成事業」

1. 趣旨

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者（NEAL）養成カリキュラム」に則り、自然体験活動指導者を養成することにより、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じ、適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者を育成する。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和7年1月11日（土）～1月13日（月祝）【2泊3日】

(2) 参加者

①参加対象

18歳以上の自然体験活動指導者（NEALリーダー）資格保有者で「演習Ⅰ」を修了している者

②参加人数

12名

3. 企画運営のポイント

(1) 主体的な学びの場を提供するために、講義・演習において参加者同士の交流を深める仕掛けや、相互学習する時間を意図的に設けた。

(2) 有識者を講師に招くことにより、専門的な知識・技能を習得できるようプログラムデザインをした。

4. 日程

	午 前	午 後
1月11日 (土)	開講式 講義①「学校教育における体験活動」 講師：当施設次長 齊藤 裕徳	講義②「対象者理解」 講師：国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 診療所長 成田 秀幸 氏 講義③「自然体験活動の指導」 講師：国立中央青少年交流の家 主幹 高瀬 宏樹 氏
1月12日 (日)	講義④「自然体験活動の特質」 演習①「自然体験活動の技術」 講師：サンデン(株)施設管理セクション ECOS チーム サンデンフォ レスト森林管理部門 柴崎 薫 氏	講義⑤「自然体験活動の安全管理」 講師：大東文化大学 教授 中村 正雄氏 講義⑥「自然体験活動の企画・運営」 講師：国立中央青少年交流の家 主幹 高瀬 宏樹 氏
1月13日 (月祝)	講義⑥「自然体験活動の企画・運営」 講師：国立中央青少年交流の家 主幹 高瀬 宏樹 氏	講義⑥「自然体験活動の企画・運営」 講師：国立中央青少年交流の家 主幹 高瀬 宏樹 氏 履修試験 閉講式

5. 主な活動内容



講義①

「学校教育における体験活動」



講義②

「対象者理解」



講義③

「自然体験活動の指導」



講義④

「自然体験活動の特質」



演習

「自然体験活動の技術」



講義⑥

「自然体験活動の安全管理」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足 12 (100%) やや満足 0 やや不満 0 不満 0

(2) 参加者の声

- ・座学と実践がバランスよく展開されることで、頭で理解したことを習得しやすかった。
- ・演習の出来事を安全管理のコマでふりかえることで、安全管理の視点をイメージしやすかった。
- ・ねらいの軸が大切だと改めて感じる機会となった。
- ・フィールドによって異なる動植物や課題など理解していくことが大切であり、いかに問題への関心を意識できるのか等の重要性を学んだ。

(3) 成果

- ・知識習得のための講義と技能習得のための実習を効果的に組み合わせることで高い満足度につながった。
- ・所外での演習を取り入れたことで、地域の環境への課題や取り組み事例を知る機会と、問題意識を持つ視点を得る機会となった。また、地域課題を知り、間伐作業～間伐材でのクラフト活動を通して、アクティビティが線となり、プログラムの企画・運営を行う際に有用な知識や体験を育む機会となった。

(4) 課題

- ・社会人の受講者が多い本事業では、より多くの方に参加いただけるよう広く広報していくとともに、申込期間を可能な限り確保するなどの工夫が必要である。
- ・本事業履修後に取得が必要な「演習Ⅱ」を履修する機会が少なく、希望する方への対応に苦慮している。演習を行える場と機会を設ける必要がある。

担当：事業推進係主任 中谷 仁
企画指導専門職 中山 太平

「第 1 回利用団体説明会」

1. 趣旨

国立赤城青少年交流の家を利用する団体の引率者が、施設の利用方法や各活動プログラムの内容を理解するとともに、実際にプログラムの一部を体験する。

2. 事業の概要

(1) 期 日

令和 6 年 5 月 2 日 (木)

(2) 参加者

①参加対象 令和 6 年度利用団体、利用の仕方の説明を希望する各団体の引率者

A コース：5 月 3 日～8 月 3 1 日ご利用の団体

B コース：6 月 4 日～8 月 3 1 日ご利用の団体

②参加人数 A コース (応募 1 1 団体 1 4 名)

B コース (応募 1 0 団体 1 3 名)

③参加者の内訳 小学校教諭 1 0 名、中学校教諭 1 1 名、高校教諭 1 名

社会教育団体指導者 5 名

3. 企画運営のポイント

(1) 体験を主とした A コースと施設説明を主とした B コースを利用期間に応じて選択できるように計画した。

(2) 両コースともゆとりある時間配分にして、参加者からの質問を受けやすい体制を整えた。

(3) 開催日を平日に設定し、学校職員が出張で参加できるようにした。

4. 日程

	午 前	午 後
A コース	開会行事 野外炊事「カレーライスづくり」	野外炊事「カレーライスづくり」 キャンプファイヤー薪組み アドベンチャーラリー アンケート記入
B コース	開会行事 施設利用説明 施設見学	施設見学 個別打ち合わせ アンケート記入

5. 主な活動内容



開会式



施設利用説明



施設見学（屋外）



施設見学（館内）



野外炊事体験「カレーライスづくり」



個別打合せ

6. 成果と課題

（1）参加者アンケート結果

満足 21 名（78%）、やや満足 6 名（22%）

（2）参加者の声

- ・初めての利用だが、丁寧な説明があり不安がなくなった。
- ・野外炊事やキャンプファイヤーの説明では、実際に薪の組み方などを見せてくれたので分かりやすかった。
- ・個別の相談では、丁寧に対応してくれて分かりやすかった。
- ・プログラム作りのポイントや施設の利用に関して昨年度からの変更点が分かった。
- ・アドベンチャーラリーについて概要を知ることができた。

（3）成果

- ・Aコース、Bコースの選択制にしたことで、参加者のニーズに合った対応ができた。
- ・Aコースでは、プログラムとして実施することの多い野外炊事、キャンプファイヤー、アドベンチャーラリーを実際に体験することで、指導のイメージをつかむことにつながった。
- ・Bコースでは、「丁寧に対応していただき、プログラム作りの参考になった。」「適切な提案をいただいた。」などの感想が多いことから、ゆとりある時間配分が参加者の高い満足度につながった。
- ・施設利用説明では、昨年度からの変更点を中心に伝えることで、参加者が今年度利用の際、注意する点を具体的に把握することにつながった。

（4）課題

- ・個別打ち合せに関しては、短いと感じる参加者もいたことから、次回は職員の分担や時間配分を工夫し、各団体十分な打ち合わせ時間を確保することが必要である。

担当：企画指導専門職 中山 太平

「第2回利用団体説明会」

1. 趣旨

国立赤城青少年交流の家を利用する団体の引率者が、施設の利用方法や各活動プログラムの内容を理解するとともに、実際にプログラムの一部を体験する。

2. 事業の概要

(1) 期 日

令和6年7月8日（月）

(2) 参加者

①参加対象 令和6年度利用団体、利用の仕方の説明を希望する各団体の引率者

Aコース：7月10日～8月31日ご利用の団体

Bコース：6月 4日～8月31日ご利用の団体

※A Bコースで募集したが、応募があったのはBコースのみ。

②参加人数 Bコース（応募5団体6名）

③参加者の内訳 小学校教諭2名、特別支援学校教諭1名
社会教育団体指導者3名

3. 企画運営のポイント

(1) ①各団体の実態に応じるための説明や案内を実施した。

②施設利用説明・施設見学を学校団体と社会教育団体で分かれて実施した。

(2) 両コースともゆとりある時間配分にして、参加者からの質問を受けやすい体制を整えた。

(3) 開催日を平日に設定し、学校職員が出張で参加できるようにした。

4. 日程

午 前	午 後
開会行事 施設利用説明 施設見学	施設見学 個別打ち合わせ アンケート記入

5. 主な活動内容



施設利用説明（学校団体）



施設見学（館内）



施設見学（屋外）

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足6名（100%）

(2) 参加者の声

- ・入所時の動きや職員の配置など具体的なアドバイスがもらえた。
- ・個別の打ち合わせでは、何でも相談できるということがとても心強かった。
- ・食堂の利用もできたので、児童への指導のイメージをつかむことができた。
- ・活動計画書など、提出書類の書き方についても丁寧に説明してもらえたので分かりやすかった。
- ・実際に見学することで利用のイメージができた。

(3) 成果

- ・学校団体と社会教育団体で施設利用説明・施設見学を分けて実施した。団体の実態に応じた説明・見学をすることで利用のイメージをより明確につかんでもらうことができた。
- ・個別の打ち合わせでは十分な時間を確保でき、団体の質問に丁寧に回答し、設側からの提案も伝えることができた。
- ・施設利用説明では、昨年度からの変更点を中心に伝えることで、参加者が利用する際、注意しなければならない点の具体的な把握につながった。

(4) 課題

- ・参加団体が少なかったため、団体ごとの丁寧な対応が可能だったが、参加団体が多い場合の職員配置や実施方法については検討が必要である。

担当：企画指導専門職 中山 太平

「第3回利用団体説明会」

1. 趣旨

国立赤城青少年交流の家を利用する団体の引率者が、施設の利用方法や各活動プログラムの内容を理解するとともに、実際にプログラムの一部を体験する。

2. 事業の概要

(1) 期 日

令和6年8月23日（金）

(2) 参加者

①参加対象 令和6年度利用団体、利用の仕方の説明を希望する各団体の引率者

Aコース：8月27日以降ご利用の団体

Bコース：10月1日以降ご利用の団体

②参加人数 Bコース（応募6団体10名）

③参加者の内訳 小学校教諭10名

3. 企画運営のポイント

(1) 体験を主としたAコースと施設説明を主としたBコースを利用期間に応じて選択できるように計画した。

(2) 両コースともゆとりある時間配分にして、参加者からの質問を受けやすい体制を整えた。

(3) 開催日を平日に設定し、学校職員等が出張で参加できるようにした。

4. 日程

	午 前	午 後
Aコース	開会行事 野外炊事「カレーライスづくり」	野外炊事「カレーライスづくり」 キャンプファイヤー薪組み アドベンチャーラリー アンケート記入
Bコース	開会行事 施設利用説明 施設見学	施設見学 個別打ち合わせ アンケート記入

5. 主な活動内容



個別打合せ



アドベンチャーラリー



野外炊事

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足10名（100%）

(2) 参加者の声

- ・前年度からの変更点や登山する山の状況など知ることができてよかった。
- ・個別の打ち合わせでは、教員目線で細かいアドバイスを聞くことができた。
- ・実際に体験することで、子供たちの動きやつまづきやすい場面を把握することができた。
- ・子供と同じ活動を体験することで、どれくらいの時間がかかるかイメージができ、実際の計画に生かせると感じた。
- ・活動で準備する物について丁寧に説明していただき安心した。

(3) 成果

- ・ABコースともに、各団体のニーズに合った対応ができ、高い満足度につながった。
- ・学校団体としては平日開催がありがたいとの声が多かった。
- ・登山を実施する団体には、現在の山の状況や野生動物の情報などを直接伝える良い機会となった。
- ・ABコースともに、「個別の相談に丁寧に対応していただき、助かった。」「活動で使う準備物についても丁寧に教えていただいた。」などの感想が多いことから、ゆとりをもった計画をたてたことで参加者の高い満足度につながった。

(4) 課題

- ・Aコースは実施希望の多いプログラムを中心に設定したが、プログラムによっては実施しない団体もある。実施しないプログラムの時間は個別の質問を受ける時間や施設見学を実施できる時間として設定するなどの工夫が必要である。
- ・施設説明を中心としたBコースでは参加団体が少なかったこともあり、個別の打ち合わせに十分な時間を確保することができた。しかし、参加団体が多い場合には、職員の分担・配置に関して配慮が必要である。

担当：企画指導専門職 中山 太平

5 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業(交流の家実施主体事業)

「群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動推進事業」

1. 趣 旨

群馬県における青少年の体験活動を推進するとともに、「体験の風をおこそう」運動を広く普及することを目的として、群馬県教育委員会及び学校教育関係者並びに青少年団体による実行委員会を組織し、実行委員の団体及び関係する団体と連携しながら体験活動の場を提供する。

2. 事業の概要（期日と参加者数）

（3月1日現在）

	参加事業名	期日	参加人数	場所
1	ゴールデンウィーク特別イベント	4/28	417	群馬県生涯学習センター
2	富士見地区のびゆくこどものつどい	5/19	302	富士見公民館
3	AKAGI PIG-OUT CAMP	5/25 5/26	422 395	みやぎ千本桜の森公園
4	ぐんだいで遊ぼう！	8/6	86	群馬大学理工学部
5	まえばし赤城 Water Battle Survival	8/25	196	道の駅まえばし赤城
6	前橋市生涯学習フェスティバル 2024	8/31	184	前橋市中央公民館
7	碓氷のつどい	9/16	202	安中市松井田公民館
8	親子で楽しむ性教育フェスタ	9/23	557	群馬県青少年会館
9	妙高感謝祭	10/13	586	国立妙高青少年自然の家
10	群馬県民の日特別イベント	10/28	369	群馬県生涯学習センター
11	赤城南面クラフトフェア	11/2	186	道の駅ぐりーんふらわー牧場
12	富士見産業祭	11/3	305	富士見公民館
13	あつまれ！親子運動会	11/30	78	群馬県生涯学習センター
14	まえばし赤城クリスマスワークショップ	12/22	194	道の駅まえばし赤城
15	子ども体験ワークショップ	2/22 2/23 2/24	423 416 320	スマーク伊勢崎
16	神川げんきプラザ「スプリングフェスタ」	3/20	—	埼玉県立神川げんきプラザ
	合 計		5,638	

3. 企画運営のポイント

- (1) 様々な年代とより多くの青少年に対して、体験活動の機会と場の提供ができるよう多くのイベントに参加し、缶バッジづくり体験を提供した。

4. 事業の様子



「ゴールデンウィーク特別イベント」



「AKAGI PIG-OUT CAMP2024」



「前橋市生涯学習フェスティバル2024」



「県民の日特別イベント」



「あつまれ！親子運動会」



「子ども体験ワークショップ」

5. 成果と課題

(1) 成 果

- ・新たな連携先として「安中市教育委員会生涯学習課」や「埼玉県立神川げんきプラザ」と連携してブースの出展を行ったことで、前橋市以外の方に体験の場を提供及び「体験の風をおこそう」運動の普及・啓発を図ることができた。

(2) 課 題

- ・地域への体験活動の普及については、多数の出展を行う中で達成できている。次年度も、新たな連携先や既存の連携先の維持を行っていく。一方で、実行委員会の構成団体同士が連携した取り組みをさらに推進させる必要がある。それぞれの実行委員がより主体的に「体験の風をおこそう運動」の推進に取り組める体制の整備を行うとともに、実行委員が相互に連携して同運動の推進を行うことができる環境づくりが必要である。

担当：事業推進係員 小野 北斗

「あかぎフェスタ2024」

1. 趣旨

「体験の風をおこそう」運動を広く普及することを目的に実施する。
また、小学生・幼児等の親子を対象に子供たちの成長に様々な体験活動が大切であることと基本的生活習慣の重要性について発信する機会とする。

2. 事業の概要

(1) 期日 令和6年10月20日(日)(日帰り)

(2) 参加者

- ①参加対象 「体験活動」に興味のある親子
- ②参加人数 576名(162家族)
- ③参加者内訳 保護者122名、高校生0名、中学生27名、小学生281名、幼児112名、3歳未満児34名

3. 企画運営のポイント

- ・群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会構成団体と連携して企画・実施する教育事業として位置づける。
- ・家族、特に子供たちに、多様な遊び、体験の機会と場を提供する。
- ・参加者の移動による負担を減らしたコンパクトな運営に資するためメイン会場を体育館とする。

4. 日程

	午 前	午 後
10月 20日 (日)	○開会式 ○体験活動ブース(13出展) ○キッチンカー(5台) ○大道芸パフォーマンス	○吹奏楽演奏会 ○大道芸パフォーマンス ○閉会式

5. 主な活動内容



体験ブース(屋内)
ネイチャークラフト



体験ブース(屋外)
クラックビー玉づくり



体験ブース(屋外)
マイスプーンフォークづくり



ポニー乗馬体験



大道芸パフォーマンス



吹奏楽演奏会

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足 103 家族 (83.7%) やや満足 19 家族 (15.4%) やや不満 0 家族 不満 0 家族
無回答 1 家族 (0.8%)

(2) 参加者の声

- ・ 普段できない体験ができて楽しかった、色々な体験ができた。
- ・ 動物とふれあうことができて満足した。
- ・ 工作ができて満足した。
- ・ 体育館や屋外など色々な場所で体験ができて広々としていて良かった。
- ・ 無料で参加できるのはありがたい。
- ・ 今後も参加したいと思う。

(3) 成果

- ・ 群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会の構成団体 13 団体に加え、群馬県立勢多農林高等学校や前橋市立前橋高等学校など様々な団体と連携して取り組むことができた。
- ・ 日帰り参加のみの実施としたことにより、前年度よりも多くの参加者に来場していただくことができた。
- ・ 体育館をメイン会場としたことで、寒さや強風などの天候による影響を最小限に抑えることができた。
- ・ メイン会場、ステージ発表会場、駐車場など主な各会場の移動範囲をコンパクトにしたことで、準備から事業当日、後片付けまで効率的に運営することができた。

(4) 課題

- ・ 事業前日が雨天の場合、小学校の運動会が事業当日に順延されて実施となり、参加者が激減する可能性があった。前橋市など近隣の小学校の行事日程などを踏まえた上で事業を計画する必要がある。
- ・ 体験ブースでは順番待ちの行列ができ、待ち時間が長い時間帯があった。ブース数に適した参加者数の設定、入場者数の制限、整理券の利用などの対策を検討する必要がある。
- ・ 駐車場の車両の出入り口と歩行者の通路が交錯し、スタッフによる交通誘導が必要な場所があった。駐車場周辺の安全確保について、前もって十分に検討する必要がある。

担当：主任企画指導専門職 杉山 直弥
事業推進係主任 中谷 仁

「あつまれ！親子運動会」

1. 趣旨

親子で楽しめる運動会をテーマに、異年齢の参加者との関わりを通して、新たな気づきやコミュニケーション能力の向上を図るとともに、親子の絆を深める一助とする。

2. 事業の概要

(1) 期 日

令和6年11月30日（土）

(2) 会 場

群馬県生涯学習センター 体育館

(3) 参加者

①参加対象 未就学児～中学生を含む親子

②参加人数 22家族78名

③参加者内訳 保護者36名 高校生0名 中学生0名 小学生28名
幼児14名 3歳未満児0名

(4) 運 営

- ・群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会企画委員 4名
- ・群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会 事務局 3名
- ・アーツビジュアル専門学校 学生16名 教員1名
- ・前橋市赤城少年自然の家 ボランティア13名
- ・フリーアナウンサー1名
- ・プログラム講師 計9名

3. 企画運営のポイント

- (1) 群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会内に設置された企画委員会が主となり企画・運営する事業とする。
- (2) 各所属団体のノウハウを共有し相乗効果を図るとともに、体験活動における各スタッフのスキルアップ及び委員会の活性化を目指す。
- (3) 子供たちに多様な遊び、体験の機会と場を提供するとともに、親子間の絆を育む一助となるよう、親子で協力して実施するプログラムを企画する。

4. 日程

午 前	午 後
・開会式及びアイスブレイク ・各ブースでの体験活動 (モルック、ボッチャ、輪投げ、スラックライン、的当て、eスポーツ、缶バッジづくり、どんぐりキーホルダーづくり)	・親子運動会 (玉入れ、綱引き、親子リレー) ・閉会式

5. 主な活動内容



開会式



アイスブレイク



各ブースでの体験活動
(モルック)



各ブースでの体験活動
(eスポーツ体験)



綱引き



親子リレー

6. 成果と課題

(1) 参加保護者アンケート結果

満足：21人(95.5%)	やや満足：1人(4.5%)
やや不満：0人(0%)	不満：0人(0%)

(2) 参加者の声

- ・普段馴染みのないスポーツを含め、色々な体験ができた。
- ・子供も大人も楽しめるプログラムであった。
- ・イベントの司会進行がとてもスムーズであった。
- ・参加人数や会場の規模が適切であった。
- ・スタッフの対応や表情がよかった。

(3) 成果

- ・群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会所属団体に加え、群馬県生涯学習センター、群馬県綱引き協会、群馬県スラックライン協会、アーツビジュアル専門学校など様々な団体と連携して実施することができた。
- ・群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会企画委員が事業の立ち上げから当日の運営まで携わった事業であったため、様々な場面でスタッフ間の所属団体の垣根を超えた連携が見られ、ノウハウの共有やスキルアップにつながった。

(4) 課題

- ・令和6年度は、群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会企画委員の選定から事業実施までのスケジュールがタイトであった。令和7年度はさらに多くの所属団体の協力を得て、より実効的な連携・協働体制の構築に努める必要がある。
- ・午前中に実施した各ブースでの活動について、ブースごとの活動所要時間が異なり、混雑するブースがあったため、活動時間を事前に決めておくなど、参加者を分散する工夫が必要であった。

担当：事業推進係員 小野 北斗

「さくらフェスタ」

1. 趣旨

地域の方々に当施設の新しい年度の始まりを知らせ、体験活動の意義や重要性について認識を深めてもらうため、施設を開放し、施設内で咲いている桜の観賞や体験活動の機会を提供する。

2. 事業の概要（期日と参加者）

	内容	期日	参加人数
1	さくらフェスタスタンプラリー	令和6年4月1日（月）～21日（日）	257名
2	前橋市立前橋高等学校吹奏楽部による演奏会	令和6年4月6日（土）	84名
	合 計	21日間	341名

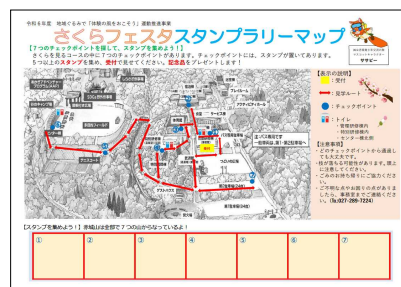
3. 企画運営のポイント

- （1）地域住民の方に広く周知できるよう、メディアや地域の回覧板等を活用する。
- （2）体験活動の意義や重要性を伝えることができるよう、桜を鑑賞しながら所内を散策できるスタンプラリーを企画する。
- （3）安心・安全なプログラム運営ができるよう、実施前や実施期間中に落ち枝等の点検を行う。

4. 事業の様子



「桜の花」



「スタンプラリーマップ」



「市立前橋高校吹奏楽部演奏」

5. 成果と課題

（1）成果

- ・開催期間を昨年度の3倍となる3週間にしたため、スタンプラリーに多くの方に参加していただけた。
- ・前橋市立前橋高校吹奏楽部による演奏会は子供から大人まで大好評であった。
- ・桜の鑑賞とスタンプラリーを目的に初めて来所された方がいた。当施設を知ってもらいよい機会を提供できた。

（2）課題

- ・前橋市立前橋高等学校吹奏楽部による演奏会では、多くの方に参加していただくために開花予報なども参考にし、実施することが必要であった。
- ・スタンプラリーではご年配の方にも楽しんでもらえるよう、マップを見やすくしたり、足腰の負担の少ないコースを設定したりするなどの工夫が必要である。

担当：主任企画指導専門職 杉山 直弥

6 その他

「地域との合同防災訓練」

1. 趣 旨

「前橋市地域防災計画」に基づき、地域との防災訓練を通して、地域との連携協力を促進する。さらに、災害時における安全な避難方法や必要とされる防災グッズの内容について学び、防災・減災を担う拠点としての役割を地域住民に理解していただくとともに、職員の受け入れ態勢の確認を行う。

2. 事業の概要

	午 前	午 後
11月 15日 (金)	・防災アドバイザーからの講話 ・ダンボールベッド等組立訓練 ・災害体験訓練	・昼食 ・施設見学（自由参加）

3. 企画運営のポイント

- (1) 前橋市総務部防災危機管理課防災アドバイザーから講話をいただくことにより、防災意識の向上を図った。また、ダンボールベッド組立訓練や災害体験訓練を行うことで、有事への心構えを養った。

4. 事業の様子



「講話の様子」



「ダンボールベッド組立訓練」



「災害体験訓練」

5. 成果と課題

(1) 成 果

- ・前橋市総務部防災危機管理課防災アドバイザーから講話をいただいたことにより地域住民の防災意識が向上した。
- ・ダンボールベッド組立訓練や災害体験訓練といった実践的な訓練を実施したことによって、地域住民の災害に対する心の準備ができた。
- ・地域住民の避難訓練を毎年行ってきたことで、地域住民に当施設へ避難する意識の定着が図られた。

(2) 課 題

- ・地域住民の避難を受け入れるには、施設に異常がないことが前提となる。今回はその確認訓練が十分ではなかったため、次回は状況を詳細に設定して訓練を行う。

担当：管理係員 大崎 紗也加

令和6年度 国立赤城青少年交流の家 教育事業等報告書

令和7年3月

編集・発行 独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立赤城青少年交流の家

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山 27

TEL 027-289-7224 FAX 027-289-7226

URL <https://akagi.niye.go.jp/>

E-mail akagi-kikaku@niye.go.jp

